

すぎなみ大人塾 2019 年度合同成果発表会

2020 年 2 月 8 日 於 セシオン杉並 ホール 13 時 30 分～17 時 00 分

学習支援者:総合コース学習支援者:伊藤 剛

西荻コース学習支援者:船尾 本

高円寺コース学習支援者:川上 和宏

総合コース・西荻コース・高円寺コース受講生の皆様(発表順)

すぎなみ大人塾事務局:生涯学習担当部長 安藤利貞

生涯学習推進課長 本橋宏己

## 合同成果発表会ガイダンス

司会者:皆さん、こんにちは。時間になりましたので、令和元年度のすぎなみ大人塾の合同成果発表会を始めさせていただきますと思います。合同成果発表会ですけれど、成果と言っても、皆さんの学んできたことを発表するということですので、それぞれの参加した方がどんなことを感じて、これからどうしようと思っているのかというあたりをぜひ受け止めていただければと思います。発表会ですけれど、発表する側がいて聞く側がいるという一方通行ではなくて、お互いに今日発表を聞きながら、こういう活動とか、こういう関心って面白いなと思ったら、今度は皆さんの中で発表した方と繋がっていただいたり、又、自分の中で自分のテーマとして調べたり、今日の出会いか発見というものを生かしていただけたらと思っています。前半は発表形式ですが、後半は少しホールの後ろを使ってお互いに知合いを増やすようなプログラムを考えています。最後までお楽しみいただければと思います。

本日お配りしたパンフレットの表面に書いていますが、今日の記録用に私共写真を撮らせていただく場合がございます。大人塾の映像を、今、総合コースで学習支援者をしていただいた伊藤剛さんがまとめてくださっているという関係もあって、映像を撮らせていただいたりします。そういうのがちょっと遠慮したいという方は黄色い腕章を、スタッフの方にお声がけいただければお渡しできますので、それを左腕のところに着けておいていただければと思います。又、皆さんの中でも SNS 等で発信されるような方もいらっしゃるかもしれませんが、黄色い腕章を着けている方には少しご配慮いただきながら発信していただけたらなという風に思っております。

それでは、さっそく開会の挨拶から始めさせていただきますと思います。開会の挨拶は、杉並区教育委員会事務局、生涯学習推進課、本橋課長より行いたいと思います。よろしくをお願いします。

## 開会の挨拶

生涯学習推進課長・本橋宏己:皆さんこんにちは、生涯学習推進課長の本橋です。本日は、すぎなみ大人塾合同成果発表会にお集りいただきまして誠にありがとうございます。この大人塾は平成 17 年に始まりまして、もう 15 年近くやっております。平成 29 年から今のスタイルというのか、総合コースと地域コースと、分かれて開催しております。すぎなみ大人塾のキャッチフレーズは、「自分を振り返り、社会とのつながりを見つける大人の放課後」というキャッチフレーズです。今年度は、総合コースのプラネット・ラボということで、環境問題ですとか、サイエンスのことを改めて考えるという学びをされたと聞いております。

7 月ですかね、極地建築家の村上祐資先生が桃井第二小のほうで講演会をされました。その時、参加した児童が作った「イグルー」という大きな圧雪ブロックを使って作る一時的なシェルターのようなのがありますが、前日にパーツを作るところを見学に行きましたら、いつの間にか手伝うことになりました。なかなか貴重な体験をさせていただきました。「イグルー」は杉並工業高校の生徒さんが協力して作りましたが、そのお披露目を 3 月 1 日、セシオン杉並のサイエンスフェスタでやることになっておりますので、皆さんぜひいらしていただければと思います。

地域コースのほうは先程も申し上げましたように平成 29 年から 3 年目に入って、高円寺と西荻地域で展開をしてまいりました。実は来年度は、それを荻窪、方南和泉の方に広げていきたいという風な考えを持っております。実はこちらのセシオン杉並は、令和 3 年、4 年ともう 30 年建設されてから経過しておりますので、リニューアルの工事に入ってしまうので、す

から、令和 3 年、4 年というのは、こちらの施設は使えなくなってしまって皆さんに大変ご不便をおかけすることになるので、西荻コースとか、高円寺コースでやっている地域展開のやっぱり試みというのは、このもちろんこういう拠点があってやれることも必要ですけど、それぞれの地域で展開ができるということで、非常にいいことだと思っております。学んだ方々がそれぞれの地域で又新たに担い手としてその地域に継続的に学びを実践していただければという風に考えております。

とにかく、この大人塾は学習支援者の方ですとか、それぞれ出ていただく講師の方々のご協力を抜きにしては考えられません。この場を借りて、感謝申し上げたいと思います。今年の 1 年、皆さんが大人塾を過ごした 1 年が、非常に有意義なものであって、今日これからの発表を楽しみにしております。きっと皆さんそれぞれの成果を遺憾なく発揮していただけたと思います。頑張ってください。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

司会者: どうもありがとうございました。それではさっそく発表に入って行きたいと思います。最初は総合コース「プラネット・ラボ」になります。こちらは参加された皆さんの受講動機にもありますように、知的な好奇心というかですね、ワクワク感で参加をして来られた方がいっぱいいます。発表時間は各テーマ毎に 5 分という風にしてありますが、そういった参加した皆さんからの発表の中で、当日のプラネット・ラボの講座風景ことも想像しながらお聞きいただければと思います。最初に、この学習支援者をしていただきましたアソボットの伊藤剛さん、どうぞ壇上の方に、あ、ここにいらっしゃいましたか。

## **総合コース成果発表**

総合コース学習支援者・伊藤剛: 総合コースの今年のプラネット・ラボの学習支援者としてやらせていただきました伊藤です。ちらほら懐かしい顔もありますが、去年はコトバ・ラボ、その前はジェネレーション・ラボという形でやりまして、今年がラボ 3 部作目のプラネット・ラボということでやらせていただきました。今年は、僕がここで話すというよりは、受講された方々がそれぞれ 1 年経って、自分がどの知見を、聞いてこなかった他の方に共有したいかでグループ分けをしていただいて、それぞれの知見を発表していただくことになります。僕の中では、今回の思いとしては、空のこととか海のこととか月のこととか、どちらかと言うと子ども心にワクワクしていたような、知的な好奇心を刺激した結果、今の地球環境とか自然災害とか少し難しいそういう 이슈 に好奇心が繋がっていくということを 1 年かけてできたらいいなという思いでカリキュラムを作りました。最後のこの場所というのは、僕は最後の学びの場所だと思っています。「ラーニングバイティーチング」という言い方がありますが、教える側になることが最大の学びであると言うか、インプットだけだとどうしても忘れちゃったり流れちゃったりしますが、皆さんと一緒にシェアしようという風になると、急に「どれが一番面白かったっけ？」とその振り返る時間がある、これが一番いいかなと思っています。僕自身も今日はどちらかって言うと皆さんと同じように学び側としてそれぞれの発表を初めて見させていただくので楽しみにしています。

僕の話はこれぐらいにして、冒頭、この 1 年間を記録してきた 2 分ぐらいの映像がありますので、このオープニング映像とともに皆さんの発表に繋がっていきたいと思います。

～オープニング映像～

司会者: ということで、今ご紹介したこのプラネット・ラボを受講した方に、これから 1 つずつどんなことを学んだのか発表していただきたいと思います。最初に、「空」のチームの皆さん、よろしく申し上げます。

## **～空チーム発表～「ウェザー・リテラシー～空をよむ」**

空チーム発表者 1:

「ウェザー・リテラシー～空をよむ」。武田康男先生、高校の教師として地学を教える傍ら、数々の気象の現象を 20 年以上に渡って撮影。その美しい空の姿を多くの人達に見せてくれています。私達にも情熱溢れる空の話をして下さいました。皆さんは子どもの頃、時間が経つのを忘れて空を眺めたことはありませんか。武田康男先生が捉えた写真です。空の魅

力とは、身近な存在、外に出ればいつでも見ることが出来ます。刻々とその表情が変化、四季、天気、時間等で変化し、1つとして同じものはありません。美しさ、カラフルな色彩、様々な表情が独特の美を生み出します。これは空グループの皆さんが撮った杉並の空の写真です。

空チーム発表者 2:

空が教えてくれること、天気、雲、風、光等、様々な要素から人類は天気を予測してきました。科学技術が発展した現在も、空は天気予報する上で貴重なヒントを与えてくれます。環境問題、PM2.5 で曇った空等、地球環境の変化、気候変動、様々な形で映し出します。地球は丸い、日の出、日の入り、日食、月食等、地球が丸いことを示す多くのこと象があります。朝日と夕日の色の違い。左の画像は朝日ですけど、朝は空気の汚れも空気中の水分も少なく、黄色やオレンジの色を強く感じます。右側の画像は夕方ですけど、夕方は空気の汚れなどもあり、散乱が強くて光が弱くなり、オレンジや赤を強く感じる傾向にあります。

空チーム発表者 3:

これも杉並区で撮った写真です。井の頭線の永福町駅の屋上庭園で撮ったものでして、大変見晴らしの良いところとして、副都心ですとか東京タワー、富士山等も眺められます絶好の空観察スポットになっております。この写真は1月4日の日没直前の写真でして、西の方の空です。ちょうど沈みつつある太陽、光芒(こうぼう)というものがちょうど雲を抜けて、上空に放射状に広げる非常に幻想的な光景になっていまして、これは地球が丸いことによって起きる現象でもあります。又、ちょうど低気圧が接近しておりまして、西の方から厚い雲が広がっております。天気は西から崩れるとよく言いますが、この日は予報も雪でありました。実際、夜に雪が降った訳でございますけど、この1枚の写真で、天気予報ですとか、地球が丸いこと、あるいは空の美しさ、様々な空の特色というのを身近に感じる事ができました。

空チーム発表者 4:

こちらは月と被っている雲を撮った写真ですけど、この月を月光環(げっこうかん)と言います。光の環がちょっとオレンジ色っぽくなっているのは、光の回折と言う現象が起こっています。同じ様に光の回折の現象が起こっている雲が、彩雲(さいうん)と言いまして、雲の粒の大きさがバラバラの時は白っぽくなるんですけど、大きさが揃ってれば色の付き方がはっきりします。

空グループ発表者 5:

皆さん、夕べの月を見ましたか？今朝の空は見ましたか？空ってライブです。その時、その場にはいないと共有できません。一期一会の出会いです。皆さん、スマホを見る目を少し上に見て空を見ませんか？そして、空のメッセージを感じてみましょう。

これで、「空をよむ」のグループの発表を終わります。ご清聴、ありがとうございます。

司会者:ありがとうございました。続きまして、「海」のグループ、お願いします。

～海グループ発表～「海が地球をまわしている？～空をよむ」

海グループ発表者 1:

こんにちは。私達は保坂先生講座の海グループです。

「海が地球を回している？」。一体何のことと皆さんは思われますか？それは動物や植物の生命を維持する環境を作っているのが海なのです。

地球を回すためには3つの循環があります。1つ目は深層対流と大気の流れが水の循環を起こします。2つ目は、地球に降った雨の8割は海から発生し、その3/4は海に戻ります。これが水の循環です。3つ目は、海を介する炭素の循環がい

ろいろな命を育みます。このように海がないと地球は成り立ちません。今、その海が病んでいます。海洋の酸化について、プラスチックごみについて。具体的にどのような状況であるかを知って欲しいと思います。まずは水温上昇からです。

海グループ発表者 2:

気温の上昇と共に海の温度も上昇します。そして今、海の貯熱量が限界にきています。南極大陸グリーンランドの氷床が溶け続け、今世紀末最悪 1 メートルを越す海面上昇が予測されています。海抜が低い国は海に沈み、東京も他人事ではなく、多くの土地と都市機能を失うことになってしまいます。熱によって水蒸気の勢いと量が増し、熱帯低気圧がモンスター化します。となりますと、去年関東を襲いました台風 19 号の未曾有の被害は実は、日常化してしまうということになります。又、海洋熱波、そして海面の水層が混ざっていかない、それから、炭素の放出、こういった問題が生態系に大きな打撃を与えることとなります。これまで、北極圏の永久凍土に閉じ込められていた炭素が大量に大気に放出されることになるのです。このように地球温暖化は数々の悪循環を引き起こしておりまして、ますます生物への影響が心配となります。

海グループ発表者 3:

大気中の二酸化炭素の増加は、海水温の上昇を引き起こすだけではありません。海水が大気に放出されるか、CO2 を吸収し、海の酸性化が進んでおります。海が酸性化しますと、炭酸カルシウムが出来にくくなりますので、貝やウニが殻を作れなくなったり、サンゴがサンゴ礁を作れなくなってしまう、2030 年代にはサンゴが育つ海が日本から無くなってしまいう、そういう研究もございます。

海グループ発表者 4:

プラスチックの多くは使い捨てされており、利用後きちんと処理されず、環境中に排出されています。手軽に使える分、手軽に捨てられてしまうという面もあると言えます。環境中に排出されたプラスチックのほとんどは、最終的に行き着く場所は海です。こうした多量のプラスチックごみは海の生態系に甚大な影響を与えています。このままでは今後ますます悪化していくこととなります。又、微細なマイクロプラスチックは食物連鎖で多様な生物に取り込まれています。

海グループ発表者 5:

私の担当するところは、海グループのプレゼンでも結論部分です。ただ今、海グループからのご指摘のように地球の海の温暖化は確実に進んでおります。そのような深刻な状況を迎えて、我々はどう考え、どう行動したらいいのということが問われ始めております。我々は海のグループでもっていろいろ討論しました。とりあえず考え方として、3 点に絞らせていただきます。

1 番は、我々は地球、海から長年多くの恩恵を受けていながら、意外とその実態は知っているようで知らない。もっと地球、海について理解を深めなくてはなりません。1 番まずいのは無関心でいるということが 1 番良くないと思っております。

2 番目ですが、これからは従来のようなエネルギーを大量に消費したそういうライフスタイルを見直そうと。環境に優しいライフスタイルとは一体何なのかということをもう一度我々全員が考えなくてはいけないと思っております。

3 番は、気候変動の問題を世代間の争いにしちゃいけません、ということです。ダボス会議でも、そのような影響は出ておりますけど、要するに年齢に関係なく多くの人の協力無くしては、この温暖化を食い止めることはできないだろうという風に思います。そういう前提に立ちまして、我々のグループは、この 3 点をとりあえずの方向性ということでみんなで考えてみたいという風に思っております。どうもありがとうございました。

司会者:ありがとうございました。続きまして、地球 46 億年のチームですね。

～地球史チーム発表～地球史～「46 億年のタイムトラベル」

地球史チーム発表者 1:

地球史のチームから発表させていただきます。地球史は 46 億年のタイムトラベルということですが、今回は南極からそれ

を探るといって発表させていただきます。皆さんは、南極というところをどう思うところだと思っていますか？ペンギンがいるととっても寒いといったイメージでしょうか。実際に南極の面積は日本の 37 倍、そこに大きな氷が乗っていてとっても寒いところ。世界の最低気温である $-89.2^{\circ}\text{C}$ を記録した場所もあります。宇宙には半日で行けますけど、やはり南極に行くのも半日はかかります。遠い場所でもあります。そのおかげで、南極には地球の太古が、現代まで手つかずで残されたものがあるんです。そのおかげで、地球のタイムカプセルとも言われています。今回は、その地球の歴史に関して、イエスノーで答える形のクイズを 3 問用意しましたので、皆さん一緒に参加してください。

第 1 問、氷に関するものです。南極大陸には 2,000 メートルもの氷が乗っています。ただ、これは陸地の上に乗っているの、海に浮かんでいる訳ではありません。これが溶けると、果たしてどんなことが起きるのでしょうか？この会場まで水が来て困ってしまうと思う方は、手を挙げてください。どうでしょうか。実際に南極の氷が全部溶けると、60 メートル海面が上昇します。この海面の上昇が引き起こすのは、この青い部分が海になっちゃうということですね。更に 60 メートルということですから、杉並の標高は最大でも 54.3 メートル、ということほとんどないことが起きます。これは決して他人事ではない、温暖化は大変なことだと、改めて感じるようになります。

では、第 2 問。大陸移動に関する問題です。地球史 46 億年の中で大陸移動が段々わかってきたという状況にありますけど、この矢印が今動いている大陸の動きを表しています。日本も数センチから 10 センチ程度、毎年動いているということがわかってきています。では問題です。現在、8,000 キロメートル以上離れている南極大陸と暑いインドが 2 億年前に陸続きだったと思う方、手を挙げてください。よくご存知ですね。その通りで、これが G プレートというフリーのソフトウェアで描いているんですけど、この青い丸まわりのところがインドなんですけど、下の南極プレートですね、かなり昔、1 億 3 千年ぐらい前に別れてですね、これを逆に戻した図なんですけど、こういう形で 5 千万年前頃に、ユーラシア大陸とインドがぶつかっています。そのおかげでエベレストやその高原ができたということになっています。この考え方っていうのは、ウエゲナーという人が 100 年前にいろいろ調べて、地図でジグソーパズルのように南極大陸と周辺の南アフリカとかそういう大陸が一致しているということがどうもあるのではないかと、ということが、化石とかを調べてもわかった。更にその後マントルの動きみたいなものも理論づけて説明できるようになったので、合理的に説明できたということで、どうもそういうことが実際に起こったのだらうという風に言われています。これはインドの動きですね。これはこういったこともわかっているということですね。

最後の問題です。第 3 問、南極の所有権についてです。南極に日本の土地はあるのでしょうか？あると思う方は手を挙げてください。答えは×です。南極大陸は所有権をどこの国の領土でもないというそういう条約が結ばれています。これは日本、アメリカ、イギリス、フランス、ロシアなどの 12 か国で 1959 年に条約として採択されたということがあります。こういったことを考えていくと、地球というものは誰のものでしょうか。地球は誰のものだろうと。私が中学時代に聞いた言葉で、国連人権環境会議という会議、その時のキャッチフレーズにこの下に書いてある「プラネットアースはオンリーワンアース」だと、オンリーと言う言葉、ワンと言う言葉、最近流行っていますけど、かけがえのない地球であると。私達が生きていく上で、いろいろ言えば消費をしたりして、地球環境が荒れたら被害者でもあるんですけど、加害者にもなりうると。そういうことを今回、改めて学ぶ機会を得ました。プラネット・ラボを通じて地球の声を聞くというのは大事だという風に改めて感じました。国立極地研究所の本吉先生、並びに学習支援者の伊藤さん、ありがとうございました。どうもありがとうございます。

司会者:ありがとうございました。続きまして、「星」のグループですね。

～月、海と星屑グループ発表～「星くずから地球そして月へ」

月、海と星屑グループ発表者 1:

私達はどこから来たのか。私達は何者か。私達はどこへ行くのか。

太陽は、46 億年前に宇宙を漂うガスと塵から誕生しました。誕生したばかりの原始太陽の周りには無数の塵があり、やがて塵が集積し、微惑星が形成され、原始太陽を円盤状に取り巻きます。微惑星は衝突・合体を繰り返して、約 100 万年かけて原始惑星に成長します。現在の水星から火星までの地球型惑星の領域には、20 個程の原始惑星が生まれたと考えら

れています。原始惑星は、やがて重力で互いの軌道を生み出し、衝突するようになります。原始惑星同士の大衝突から合体・成長して出来たのが、岩石からなる地球型惑星です。最終的に残った4つの地球型惑星の軌道は、十分に離れているため、これ以上の衝突は起こりません。原始惑星から地球型惑星の形成まで、1億年程度かかったと考えられています。

地球形成の最終段階で地球の約半分、火星程度の大きさの原始惑星が、地球に衝突し、月が出来たと考えられています。これを「ジャイアントインパクト説」と言います。この衝突により、原始惑星の岩石部分は蒸発して地球を取り巻き、衝突により気体となった岩石は、やがて冷えて粒子となり、地球に引き寄せられますが、一部は地球から離れて岩石の粒子の円盤となります。そこで粒子が衝突を繰り返し、自らの重力で球状になり、又衝突を繰り返し、1つにまとまり月になります。衝突後、1か月から1年で月が出来たと考えられていますが、これは宇宙の歴史から考えると極めて短い時間です。星屑が集まり、46億年の時を経て、私達は今ここにいます。そして今、温暖化を始めとする様々な地球の異変と向き合っています。私達は、国境等の線と、社会的格差、世代間の対話不足等により分断され、1つになれないでいます。宇宙の時間の流れを思うと、私達1人1人の時間は短い。地球の異変には世代を繋いで向き合っていかなければなりません。

最後に、ボイジャー1号が撮った地球の写真を見ながら、これを「pale blue dot (ペイル・ブルー・ドット)」と呼んだ天文学のカール・セーガンの思いをお伝えします。「あの点をよく見てごらん、あれが、あれが我々の故郷(ふるさと)だ。あの小さな点の表面で、過去から現在まで、この世に存在する全ての人が、それぞれの人生を生きてきたのだ。我々の惑星は、広大な宇宙の闇に浮かんだ孤独な星屑だ。この60億キロメートルの彼方から撮られた1枚の写真は、我々を謙虚にさせ、自らが何者であるかを教えてくれる。この淡く青い点は、我々にとってかけがえのない唯一の故郷(ふるさと)を守り、愛するよう訴えかけてくるようだ」。これで、月、海と星屑グループの発表を終わりにいたします。ご清聴、どうもありがとうございました。

司会者:ありがとうございました。続きまして、暦のグループになります。

## ～暦グループ発表～「太陽と月と地球の動き～暦の正体」

暦グループ発表者1:

暦グループの発表をいたします。今回私達は、太陽と月と地球の動きから作られる暦の仕組みを学びました。この中から特に印象に残ったことをお話しいたします。

暦とは、一体何でしょうか。一言で言いますと、時の流れを知り、計画的に生活するための道具です。人類は農耕生活を編み出し、爆発的に人口を増やしました。農耕には季節の推移を知り、他人の協力を得て効率良く作業を進めることが重要です。又、洪水を予測し、災害を最小限に抑える必要もありました。このために発明されたのが「暦」でした。メソポタミア、エジプト、黄河等の文明の発祥地では、古くから暦が存在し、暦を作ることに成功した支配者が文明国家を築きました。暦は、1年の設定の仕方から3種類に分けられています。1つ目、月の満ち欠けを元にした「太陰暦」、2つ目、「太陰太陽暦」で太陰暦では季節のずれが生じるため、うるう月で補正をする暦です。3つ目、太陽を基準にした「太陽暦」があります。ちなみに日本の太陽暦への導入は、明治6年1月1日ですが、その発表は1か月前でその年の12月3日を明治6年の元旦にするという強引なもので、世の中は大混乱になったようです。

暦グループ発表者2:

暦の基準は、大きく1年、1か月、1日に分けられます。1年とは、地球が太陽の周りを周る周期です。地球の自転軸が公転面に対して23.4度傾いているので、それは季節の変化の周期としても現れます。1か月とは、月が地球の周りを周る周期です。1日とは、地球が1回転する期間です。

暦の基準は、天体を基準としているため、どうしてもずれが生じてしまいます。そこで偉人達が長年努力し、ずれを修正する方法を考え出しました。太陽暦ではこのずれの周期を修正する方法として、何年かに1度、1年を366日にするという方法が考え出されました。この1年が366日の日が、「うるう年」です。紀元前45,6年、ローマの英雄ユリウス・カエサルが、4

年に1度、1年を366日にすると決めました。これが「ユリウス暦」で、西洋の暦のうるう年の始まりです。その後1,600年を経つうちに、正確な観測値との誤差が積もり積もって、約10日にもなりました。1582年、時のローマ教皇グレゴリオ13世は、「ユリウス暦」ではまだ発生する誤差を修正するため、100年に1度うるう年を止め、400年目には又うるう年を復活させるという「カトリック教会暦」を決めました。このうるう年のルールが、現在世界で1番多く使われている「グレゴリオ暦」です。ちなみに、2100年はうるう年ではありません。80年後、皆様の中でこの体験をすることができれば、素晴らしいことですね。

暦グループ発表者3:

この他に、たくさんの学びがありました。「二十四節気って何?」「うるう年はなぜ2月に調整しているの?」「うるう秒って何?」とたくさん疑問は出てきましたが、時間の関係上ここでは説明できません。後は、皆様自身で調べてみてください。そうしないと、ちこちゃんに叱られますよ。以上で暦チームの発表を終わります。ご清聴、ありがとうございました。

司会者:ありがとうございました。続きまして、自然災害ですね、ここからはイシュー編に入ります。

### ～自然災害チーム発表～「イシューについて考える【自然災害】篇」

自然災害チーム発表者1:

イシューについて考える自然災害篇のメンバーです。さっそく、授業について振り返ってみます。受講生として印象に残ったところを語っていただきます。

自然災害チーム発表者2:

最初に先生が「皆さん、天袋って知っている?」と言われて、天袋って何の話に続くのかなとちょっとびっくりしたんですけど、(先生の)お母さんが伊勢湾台風で天袋に上って助かったという話になりまして、先生が今いるのはお母さんが助かったおかげだというお話でした。で、伊勢湾台風をきっかけに法律が整備されたり、観測の機材が見直されたりして、今に繋がっているという話でした。

自然災害チーム発表者1:

なるほど、ありがとうございました。

自然災害チーム発表者3:

私はですね、このグラフですね。戦後災害により亡くなった方の数ということなのですが、このグラフは非常に印象的でした。こここのところに伊勢湾台風があって、ここが阪神・淡路大震災ですけど、ここからここまでの30数年間の間に、亡くなった方が少ないというのもこれはすごいなと思いました。この辺はハードとソフトが充実してきたからだろうという風に教えていただきました。最近では、西日本豪雨のこと等は非常に記憶に新しいところではないかなという様に思います。

自然災害チーム発表者4:

私は「世界一だからこそ問題がある」というフレーズに非常にびっくりしました。世界一の防災施設、世界一の防災情報。これらが整備されているおかげで安心しきっていたのかな。津波のハザードマップを見て、耐震性の高い住宅を建て、河川堤防、今まで人が住めなかったところにも住宅が密集している、そういう状況の中で、高波等に襲われたらもうひとたまりもないということについて、すごく納得いたしました。

自然災害チーム発表者1:

ありがとうございます。「この世界一だから問題がある?」。これはすごく逆説的な言葉ですが、このことを既に指摘した先人がおります。「災害は忘れた頃にやってくる」という言葉で有名な寺田寅彦です。但し、その意味するところは災害発生

の間隔が長いとか、人間は忘れっぽいとかそういうことではなく、「スーパー堤防ができたよね、もう安心」、だから災害を忘れてしまう、「専門家がいて高度な情報があるからもう安心だ」、だから災害を忘れてしまう。つまり、寺田はこういった「もう安心」に対して警鐘を鳴らしている。

さて日本はハードソフト共、防災先進国であるにも関わらず、災害のたびに多くの犠牲者を出しております。では、どうすればいいんだ。その対策のツールの1つとして登場したのが、「クロスロード」という対話型防災教材でした。正解のない問いに対して考えていく。分かれ道であなたならどうする。試しにこの本から1つの例題を出してみましょう。会場の皆さんも一緒に考えてみてください。挙手をお願いします。

避難所での集団生活をしております。いろいろと周囲の目が気になります。家から持ってきた非常持ち出し袋をみんなの前で開けて、中のものを食べる。ノーだという方は、挙手。ありがとうございます。会場内は圧倒的に開けない・食べないというのが主流でございます。では、受講生に聞いてみます。

自然災害チーム発表者 2:

やっぱり人目、自分だけ開けて食べるというのはちょっとできないかな、そんな感じですね。

自然災害チーム発表者 3:

はい、ちょっと周囲の目が気になっちゃってできないかなと思います。

自然災害チーム発表者 4:

はい、私も悩みましたけど、やっぱり食べるために持ってきたのでこれは食べたいと思うんですね。但し、周りで体の弱っている人がいたりすれば当然分け与えて一緒に食べるということはあると思うんですけど、食べたいと思います。

自然災害チーム発表者 1:

なるほど。で、ここで話し合ってもらいたい。考え方が違う人がいるのです。正解がない問いをみんなで考えること。そこがクロスロードのポイントになります。以上、そういった時々の局面で、悩まないで済むためにも普段から出来ることをしておく。それはイメージすること。想像し、準備することです。最後に、授業を担当していただいた京都大学の矢守先生の、「普段から災害の心構えを固めていくことが大事」という言葉を紹介して、我々の発表を終わりたいと思います。起立、礼。ご清聴、ありがとうございました。以上です。

司会者:ありがとうございました。総合コース最後の発表になります。「流域思考から見た集中豪雨対策」ということで、お願いします。

## ～地球温暖化チーム発表～「 이슈ーについて考える【地球温暖化】篇」

流域グループ発表者1―「流域思考の回」:

最後のチームになります。今日原稿の方を読ませていただきます。実はあの皆さん、手を引かれてあれ？って思った方いらっしゃると思うんですけど、実は視覚障害で点字の原稿ってこんな感じなんです。普通の字ではないんですけど、ひらがなで原稿を書いて原稿をまとめさせていただいています。テーマとしては、「上流域に住む私達のできること」ということで発表させていただきます。1枚目のスライドを出していると思いますが、上流域に住む私達にできることということで、これからあと7枚スライド出しますが、目を閉じていただければと思います。

2枚目お願いします。研究テーマですね、たびたび起きる集中豪雨に対して、杉並は上流ですけど、都内の区民としてできることは何かを皆さんと一緒に共有して参れたらと思います。

3枚目お願いします。私達の周りでどんな被害があったか、ということをもとめてありますけど、やはり河川の下流域、浸水被害が発生しているというのが特に特徴的です。平成17年9月4日の集中豪雨、これ日曜日でしたけど、この時は杉並



区をはじめとして、中野区、新宿区で3,588戸が浸水しています。そのうち半分以上の1,870戸が杉並区の浸水被害にあっています。今日、一緒に研究しているグループのメンバーも被害にあわれています。ご記憶の方もいらっしゃるかと思うのですが、NHKのテレビでもアナウンサーがマンションの前で中継されていて、すごい浸水被害だってことを報道していましたけど、まだ覚えている方もいらっしゃるかと思います。

次4枚目、お願いします。こちら、区内の流域地図と浸水予想図ということで表していますが、区内には大きな川がたくさんありますが、神田川と主に合流しまして、日本橋川、それから亀島川を通して東京湾に注いでいます。このため、下流域は浸水被害が予想されまして、これらの人達と上流域と下流域の人達が一元的に施策を実施・協力することが必要となります。

次5枚目お願いします。浸水地域の予想図ということですが、ハザードマップって区の方で発行しておりまして、これはご存知の方いらっしゃると思うのですが、過去の浸水箇所、浸水想定区域が細かく示されています。色分けしてありますね。この機会にぜひ皆さんも自分の地域がどんな状況なのかということを確認して欲しいと思いますので、ぜひこの講座を聞いた後、目を通していただけたらと思います。ホームページにも出ているそうです。

6枚目に行きます。これは杉並区だけではなくて東京都が行っている集中豪雨対策ということで示してあります。平成17年9月4日の日曜日にあった集中豪雨をきっかけにして、区でも護岸工事とか対策を整備していますけど、特に昨年の台風19号の時は、神田川、それから環状7号線の地下貯水池に容量の9割の水を貯めることができ、区内の浸水被害をわずか9件に抑えたという結果が出ています。素晴らしい取り組みだと思います。

7枚目お願いします。区内の特徴が書いてありますが、善福寺川始め一級河川で合流した下流域、中野と新宿区と台東区等が人口集中しているのですけれども、実は杉並区は結構宅地化が進んだことによって、山林、農地、緑地が減ってしまって、治水力が不十分という状況になっています。特に力を入れていることとしては、1時間に最低雨量50ミリ、更に30年後を見越して、異常気象を想定してだと思いましたが、75ミリの雨量を想定してそれに対応できる様な護岸工事が進められています。

最後になります。上流域に住む私達のできる事として、大きく3つ取り上げています。読み上げていきます。

1番目として、入浴、洗濯等の生活排水を極力抑えることです。これらを豪雨の翌日に流した場合、区内4か所の調整池で同様の量の水量を抑えることができます。2つ目としては、住宅の敷地内に浸透ます、浸透トレンチ、緑化に取り組むことで保水力を高められます。最後3点目ですけど、非常に大切なことですけど、障害者・高齢者の弱者に対するサポートです。このためには、地域コミュニティに積極的に参加し、弱者自身が自分の存在を、住んでいることを地域の人達に知ってもらうこと、これが大事だと思うんですね。私も実は視覚障害があって避難所とかに登録はしたりするけど、やはり役所に登録するだけだと、地域にどんな方がいるのかわからない、役所の方もほとんどいざとなった時は対応できない状況になると思いますので、やはり日頃から声を掛け合ったり、あるいは逆に皆さんの中でもこういう人がいるからどうかな？ということに気に留めていただくことが必要かと思うので、ぜひこの機会に少しご自分の周りに弱者、障害を持っている方や高齢者、それから妊娠されている方とか、小さい乳幼児の方とかもいらっしゃると思うのですが、そういう方は大丈夫なのだろうか？あるいはこんな方はどうしているかっていうのをちょっと気に留めていただけるとありがたいなという風に思います。以上ですけど、拙い発表ですけど、これで流域グループの発表を終わらせていただきます。どうもありがとうございます。

司会者:どうもありがとうございました。以上を持ちまして総合コースの発表は終わりですが、発表して下さった「流域思考の回」は、シブヤ大学というところとすぎなみ大人塾が共同で開催ということで、すぎなみ大人塾としては初めて渋谷のヒカリエを会場に開催をさせていただきました。今回、こういった取り組みがうまくシブヤ大学と進められたのも、学習支援者の伊藤剛さんのお力添えということもあるのですが、伊藤さんを支えていただいた青木さんという方のお力も非常に大きかったですけど、青木さん。何か一言どうですか？

青木 :初めまして。学習支援者の伊藤さんと一緒に1年講座をサポートと一緒に参加させてもらった青木と申します。

普段高円寺に住んでいるということで、一杉並区民の気持ちで参加させていただいたのと同時に、シブヤ大学のスタッフとして参加もしているのですが、シブヤ大学は大人が本気で学ぶという場を提供しています。子どもから大人まで、様々な人が特に20代が多い学びの場ですが、今後も何か連携していける可能性があるということを感じました。1年を通じて私もたくさん大きな刺激を受けさせてもらったので、この熱量を引き続きいろんなところに伝えていくことをぜひ一緒にできたら嬉しいなと思います。発表お疲れさまでした。1年間ありがとうございました。

司会者:ありがとうございました。地域コースの発表に移っていきたいと思います。地域コースは参加者皆さん、西荻や高円寺にどんな風に関わっていこうとか、或いは杉並に引っ越してきてこのまちで何かこうただ暮らすというよりは何かをやる側になってみたいとか、そんないろいろなまちと自分との関係に関心を持っていただいた方が多く参加していただいたのかなと思っております。ですので、発表のスタイルも少し変えさせていただきたいと思っております。まずは西荻コースをお願いしたいと思いますが、本当は学習支援者の船尾さんという方にお話しいただく予定だったんですけど、ちょっとご都合がありましてこの西荻コースの運営の主軸として全体的にサポートいただいた綾部庄一さんから一言いただいて始めていきたいと思います。よろしく申し上げます。

### **西荻コース成果発表**

綾部庄一:皆さんこんにちは。船尾様がちょっと体調を崩しておりますので、今日出席できないということで、私が船尾様の原稿を代読させていただきます。活舌が悪いのでお聞き苦しい点はご容赦ください。

～船尾本さんからのメッセージ～

まず、学びの案内人として、3年間お世話になりました。サポーターの皆さん、東京女子大学松尾教授、学生の皆さん、そしてゲストの皆さん、それから私達を支えていただいた事務局にお礼を申し上げます。高齢成熟社会へ向けて今からが本番です。誰もが交じり合えるファンコミュニティの活躍を期待しております。というコメントです。それから西荻コースにおきまして、2017年の講座は「まちを知って2枚目の名刺をつくろう」、2年目の2018年は「暮らしをサイズアップするプロセスを知ろう」、3年目の今年も総仕上げとして「仲間と繋がって企画をみんなで発表しよう」。地域デビューをしたいけれど、なかなか実現できないと聞きます。もう一方でデビューはしたけど思った企画に結びつかないとも。受講生の皆さんは1年、2年、3年目のいずれも入口は違いますが、全ての講座の真ん中は皆さんの力で地域に触って、どう活躍するかを企画・経験していただきました。チームが無くなるかもしれない危機も乗り越えました。そして素敵な発表が多くありました。企画しよう、触ろう、地域実験しよう、そして皆さんに伝えたい最後のメッセージは、「学びを経て、今から本番ですよー」です。仲間やお友達が見つかった、発表を通して自分の企画力を知った、中にはこんなことができるなんて想像以上だったという方もいらっしゃいます。講座が終わっても活動が続いているチームもあります。ぜひ、お仲間やサポーターズの皆さんのお力添えを得て、いろいろな形で活躍されることを期待します。そして、ご自身もサイズアップしてください。きっと楽しかったという感想が嬉しかったという実感になる筈です。大人塾の人々がまちを学び、西荻の子ども達と仲良くなります。

以上、代読させていただきました。どうもありがとうございました。

司会者:綾部さん、ありがとうございました。急な代役ですみませんでした。西荻コースは、講座の中で5つのこういうことやってみようというグループが生まれて、その5つのグループが、西荻のまちで既に活動しているいろいろな団体の方や東京女子大学でこんなまちにしたいと思っている学生の方と一緒に、1月に「西荻ふあんふあんフェス」というおまつりを高井戸第四小学校で開催しました。その様子を皆さんに見ていただいて、今年の西荻コースの全体像を感じていただければと思います。

～西荻ふあんふあんフェス動画上映～

司会者:はい、以上でございます。この5回目の「西荻ふあんふあんフェス」に向けてその過程でいろんなことがあったっていうのが西荻コースの皆さんの学びの定番にもなっていた。5つのグループ、1チーム1分ずつ、感想なりこれからに向けたメッセージを皆さんに届けていただきたいという風に思っています。皆さん、どうぞ。アートチームから行きますか？

#### ～にしおぎアート部発表～

にしおぎアート部発表者:

にしおぎアート部です。今回の講座でチームを作り上げることが面白いなということを感じました。最初にアートで何かをしようということだけで集まり、その中で何故なのかわからないんですけど、「何かを吊りたい」というキーワードが出てきました。何を吊るすのか、どういう形になるのかわからない中で、みんなで意見を出し合いながらみんなの面白いっていうアイデアが繋がってどんどん展開していくっていう過程がすごく面白かった。結果的には、影絵を使ったワークショップを開催しました。参加者の方に影絵の型を作ってもらって、それをプロジェクターで投影して壁に大きく映し出しました。当日思った以上の仕上がりになったことと、参加者の方に喜んでもらったことがすごく嬉しかった。私達の最終目標は、西荻の駅前、改札出た辺りにやはり何かを吊りたいなと思っています。西荻の駅が何か面白いことになっているよという様な噂になれば、きっと楽しいことが起こるんじゃないかなと思っています。影絵のワークショップも、その他ワークショップ、その他何かアートの活動、何か企画がございましたらオファーをお待ちしております。ありがとうございました。

司会者:ありがとうございます。続きまして「西荻たんけん隊」。どうぞ。

#### ～西荻たんけん隊発表～

西荻たんけん隊発表者:

私共は西荻を歩くことによって、何かを再発見しようという西荻たんけん隊でございます。探検コースを作るためには、みんなの英知を結集しまして、スポットを洗い出しまして作ったコースがこちらです。ちょっと見えにくいですけど、西荻から北に行って善福寺川をずっと上りまして水源の善福寺池まで行くという、これは名付けて「西荻スイスイコース」水にちなむところを歩くようなコースでございます。

しかしながら、このコースができて世に出る時を待っているという状況になっておりますが、私共の活動はそれにとどまりません。更にスポットを集めて新たなコースを作りたいということで、先程紹介しました「西荻ふあんふあんフェス」にて皆さんからスポット情報をたくさん仕入れました。これから、これをコースにしたためていくという大作業が待っております。それだけではございません。活動を続けます。あなたの散歩コースを作ります、気になるスポットを教えてくださいということで、スポットを集めましてコースを作っていきたいと思っております。参加したい方、ぜひ私共にお声がけいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

司会者:西荻たんけん隊の皆さん、ありがとうございます。続きまして「おとまちチーム」ですね。よろしく願いします。

#### ～にしおぎ音まち事務局発表～

にしおぎ音まち事務局発表者:

にしおぎ音まちコースです。我々は、音、それから音楽を通じてまちづくりができないかという仲間が集まったチームです。「西荻ふあんふあんフェス」までミーティングを重ねたりまち歩きをしたり、西荻に相応しい音・音楽は何なのかということを考えて活動してきました。その中で僕達が辿り着いた1つの仮説はタンゴという音楽でした。このタンゴをベースに阿佐谷のジャズ、それから荻窪のクラシック、こういうものに負けない一大フェスを西荻で実現したいというのが僕達の熱い思いであります。その活動の中で、西荻タンゴ・フィエスタ準備委員会というのがございまして、活動を通じて我々も協力という形で参加させていただくことになりまして、今そいういったもろみを皆さんと一緒にミーティングを重ね、今2回くらいミーティングをしているところですけど、活動を大人塾が終わっても発展的に継続させていただけるというところでございます。直近

ではこちらにありますけど、来週のパレンタインにちなんで、ヴァレンタイン・バンドというのを善福寺川沿いのカフェ、カワセミ・ピプレットで開催する運びとなりました。そういった地道な活動を通じて、今申し上げた西荻のタンゴフェス、これを実現していきたいなということでこれからも精進していきたいなと思っているところです。本日はありがとうございました。

司会者:ありがとうございます。続きまして、「UD チーム」、ユニバーサルデザインチーム、よろしくお願いします。

### ～チームUD/射的発表～

チームUD 発表者:

チームUD の島田と申します。私達のチームですけど、この西荻コースで一番小さいこじんまりした5人のチームでした。1人でも欠けるとチームが崩壊するのではないかという危機にいつも苛まれておりました。チームUDの由来ですが「ユニバーサルデザイン」というそのキーワードに集まったチームです。このユニバーサルデザインという意味は、日本では共用品・共用サービスと言いますが、多様な人たちが一緒に使えるものだとか、サービスを言います。今後も今年は東京オリンピックがあつて、ユニバーサルデザインということがいっぱい出てくると思いますけど、皆様もちょっと興味をお持ちになってご自分でできることを続けていかれたらと思った次第でございます。ご清聴ありがとうございました。

司会者:最後、「わわわ」の皆さん、お願いします。

### ～わわわチーム発表～

わわわチーム発表者 1:

若者のわ、和の文化のわ、繋がるのわの「わわわ」です。我々このチームでどんなことを実験的にやったかということ、西荻は昭和のレトロな雰囲気似合うのじゃないかということから始まっています。今回やったのは日本の文化、日本の遊びですね、駒とかそれから羽子板とか、その遊具を使って子ども達と、人と繋がることのできるんじゃないかということで、やってみたらすごく面白かった。もう1つは「白玉」ですね、これは和の食材ということで、タピオカよりも西荻は「白玉」が似合うぞということですね。今回はあくまで企画だったので、いずれこれを西荻のまちで和菓子屋さんとかケーキ屋さんとかタイアップしてコラボして店をつくるとか、西荻白玉のまちとか、和の遊びのまちっていうのを発信していきたいと考えております。

わわわチーム発表者 2:

白玉は、白玉の材料がもち米から出来ているところですね。米を育てる文化を持つ国では、やはり白玉に似た様なおやつがどこの国にもあるということが、共通している。タピオカよりも白玉。どうぞ皆さん、西荻からブームが広がっていくことを願っててください。よろしくお願いします。ありがとうございました。

司会者:どうもありがとうございました。以上で西荻の発表を終わりにしたいと思います。最後3コース目の高円寺コースの発表に移りたいと思います。学習支援者の川上さん、よろしくお願いします。

### 高円寺コース成果発表

高円寺コース学習支援者・川上和宏さん:はい、皆さんこんにちは。高円寺コースの川上といいます。高円寺コースは、1年目は「語り合いの場」、2年目は「たまり場」、3年目の今年は「食べり場」ということで、食を交えたコミュニケーションの場づくりについて受講生達と一緒に考えながら4つの実践を花開かせるという運びとなりました。コースの内容を簡単に説明させていただいて受講生の皆さんの発表に移りたいと思います。

私達のコースでは、食を真ん中に置いた場づくりがテーマとなっております。その流れとしてはまず第1フェーズ前半部分で4つのグループを作りまして、それぞれの目的やターゲット、内容に応じて、10月22日の杉並第四小学校の家庭科室

を使って一般の方も参加できるような形で実践を展開しました。第2フェーズではゲストのお話を聞いて、最後第3フェーズでは4つの実践を更にブラッシュアップさせてコースの終了後も活動がどうやったら継続できるかというプランニングを行っていきました。これから4つのチームの代表の方に発表をしていただきますが、主に10月22日の実践でこんなことをしたよということ、それを振り返り手応えはこんな形でありましたということ、それからコース終了後こんな活動を展開していきますというその3つの観点から発表をしていただきたいと思います。と思っています。

では、「かんたんごはん」チームからお願いします。

### ～かんたんごはんチーム発表～

簡単ご飯チーム発表者：

高円寺コース、かんたんごはんチームの発表をさせていただきます。このグループが集まったのは、毎日の食事を簡単に美味しくできないかとの思いからです。何をしようかと考えていた時に、新聞に載っていた記事に出会って面白そうと興味を持ちました。その記事は、今泉マユ子さんの「お湯ポチャレシピ」というパッククッキングを紹介しているもので、高密度ポリエチレンというポリ袋に食材を入れて沸騰したお湯に入れるだけで作れる、と書いてあるコラムでした。高密度ポリエチレンというのはスーパーで生もの等を入れる時によく使うお馴染みのあの袋のことです。本当にできるの？と思った私達はプチ実践でやってみることにしました。この後は、プチ実践の様子です。

プチ実践はご飯、ソーセージ、バナナ蒸しケーキ、付け合わせのブロッコリーというメニューです。食材の入ったポリ袋を湯煎すること15分から20分、少し鍋のまま蒸らしておくだけで料理が出来上がっていきます。右上の写真はその様子です。打ち合わせの様子です。次は実践の様子です。応募して来ていただいたご家族と一緒に調理しました。食材の準備から盛り付けまでの過程は、料理というより実験に近い感覚でした。試食の様子です。皆さん、温かいごはんがこんな方法で作れることに驚きを感じていました。

私達はパッククッキングでお湯さえあれば、子どもから大人まで、外国の方ともコミュニケーションしながら作れると思いました。アウトドアや災害食にも役立つことに気付きました。パッククッキングのやり方を広めることで、地域と繋がることのできるのではと思いました。そんな時、子ども・子育てプラザ和泉で行われる、中・高生委員会が企画している卒業祝いのアウトドアクッキングの会に参加しないかというお話をいただきました。昨年も屋外で火を起こしてピザを焼く等、面白そうな取り組みをされています。その回で中高生と一緒にパッククッキングを実践して、みんなで試食する予定です。これからも私達は食べることを通じて地域の人達と繋がりたいと考えています。これで私達の発表を終わります。ありがとうございました。

司会者：はい、ありがとうございました。続きまして「ハッピーミールチーム」の方に発表させていただきます。

### ～ハッピーミールチーム発表～

ハッピーミールチーム発表者：

私達ハッピーミールは、中高生の心の拠り所を作りたいと思って集まったチームです。楽しい食事ということから、ハッピーミールと名付けました。そのミールの言葉には、相手をよく見るという意味も含まれております。最近は何親共働きのため、子どもと向き合う時間が無い家庭が増え、祖父母との同居も少なく、家庭の中で子ども達が大人と関わる時間が極端に減っているように感じています。そして時代の変化と共に、子ども達の間関係や悩み事も複雑になっていますが、話す相手、相談したりする人がいない等、子ども達の問題は山積みだと感じています。昨今のような誘拐とも言えず、家出とも言えない様な事件を減らすべく、ハッピーミールは中高生と大人の交流の場を作ろうと思いました。

先日のプチ実践では高校生の男子と小学生の女子が参加してくれました。一緒に料理を作ることから行いました。親戚のおじさんやおばさんのような立場で言葉遣いはフラットに、変わり種餃子と肉団子鍋を作りました。そしてお料理作りのポイントや学校での話や、この先何をやっていきたいか等を聞きました。簡単な出汁の取り方等、子ども達が「なるほど、簡単、へー家でやってみる」と言ってくれる様なこともたくさん教えました。そして私達も子ども達の考えや思いに「へー」と思うこともたくさんありました。

私達ハッピーミールは、今後、「”大人になりかけ食堂”を作って食べよう」を実践していくつもりです。ティーン世代の心の拠り所をテーマに、迷った時、悩んだ時はハッピーミールのおじさんとおばさんに、と思ってもらえる私達になっていきたいと思っています。実践予定は年4回を予定しています。第1回は5月24日、日曜日を予定していますが、場所は未定です。探していますので、こんなところはどうですか？みたいなところがあれば教えてください。8月は和田堀公園でバーベキュー、11月はキッチンカーでお料理体験、来年の2月は未定です。毎回参加人数予定は大人10名、中高生10名、「一緒に作って食べる」がテーマです。これから先のハッピーミールの情報発信はFacebookを立ち上げて、Twitter、インスタ等にもやっていく予定です。今現在、Facebookに「杉並区大好き」というFacebookページが私の方で作ってありますので、興味のある人方がいましたら、「杉並区大好き」のFacebookページに申請していただき、メッセージを貰えると嬉しいです。ページが出来次第、情報共有はさせていただきます。地域でいろいろな活動をしている皆さんの力を借りながら、悩める中高生を杉並区という大きな器で守り、育てていきたいと思っています。よろしくお祈りします。

川上さん:ありがとうございます。では3つ目のチーム、もちよりちゃん、お願いいたします。

### ～もちよりちゃんチーム発表～

もちよりちゃんチーム 発表者1:

もちよりちゃんチームです。よろしくお祈りいたします。チーム名の通り、食べるものは作らずに持ち寄ります。作るよりも喋る、コミュニケーションを取ることに重点を置いた場づくりがしたくて、10月に実践を行いました。テーマは、「教えて！高円寺の美味しいもの」。高円寺界隈でこれ美味しいの、とか、これみんなで食べたいなというのを買って持って来ていただいて、参加費は100円で飲み物はこちらで用意しました。時刻はお休みの日の14時から17時、昼下がりですね。参加者が10名、1つの大きいテーブルを囲んでお喋りするのに丁度いい人数でした。

結果として大変盛況だったのですが、反省点もあります。それは、美味しいものっていうだけでは基準がちよっと曖昧で、人によってはグルメなもの、高級なものという風にちよっとハードルが高い印象を与えてしまったことです。良かった点は、参加者全員が順番に話す機会を3回設けたことです。最初に自己紹介で、当日呼んでもらったニックネームと、私と高円寺というエピソードを少しお話しいただきました。2回目は持ってきた美味しいものについてのエピソード、最後、会の終わりに本日の感想を一言ということで、3回必ず皆さんが話す機会を設けました。そしてお話しをしながらマップを作った。お持ちいただいたもの以外にも、あそこの店は美味しいんだよ、ここのこれが美味しいのよというお話しが本当にいっぱい出て、マップに落としながら話したんですけど、とても充実したマップが出来上がりました。

もちよりちゃんチーム 発表者2:

引き続きましてプチ実践を踏まえての、次回もちよりちゃん企画について紹介させていただきます。次回の企画は、もちよりお喋り会、パンの会と決定致しました。次にご案内です。少し先になりますが、来る5月の大人塾まつりの後の6月14日、日曜日14時から、高円寺北の純情商店街にある「まちの駅」で開催予定です。パンをテーマにそれぞれが持ち寄ることで、地域や多世代間を超えた参加者同士でのお喋りをたくさん楽しめます。食べ物という中でもプチ実践の失敗を踏まえて、わかりやすくもっと絞り込んだテーマとして最初の企画は「パン」と致しました。そして持ち物は、誰かと一緒に食べたいパンとお好きな飲み物、それと楽しくお喋りしたいお気持ちです。広報でチラシ等わかりやすい絵柄も載せますが、お持ちになるパンは参加者全員が1口ずつ食べられる切り分けた程度の量が目安です。参加費は100円です。但し、持ち寄っていただくパンと飲み物に関しては、各自の実費となります。募集は概ね15名です。

もちよりちゃんチーム発表者3:

最後に一言なんですけど、あくまで食をツールにしてコミュニケーションを図る、コミュニケーションの部分が重要なポイントになります。何故6月ということを決めたかと言いますと、大人塾まつりで出来れば皆さんにもっと知っていただくかなということアピールさせていただきたいという風に思っております。大人塾まつりに参加される方いらっしゃいますか？そんなに？あれ？もっと手を挙げてください。ぜひ参加して、その時にご案内できれば1番ですが、まだちよっと会場調整ができ

ておりませんので、ちょっと日程がずれるかもしれませんが、その辺は何卒ご了承くださいませ。ご清聴、ありがとうございました。

川上さん:ありがとうございました。4つ目の最後のチームですね。

### ～おむすび食堂チーム発表～

おむすび食堂チーム発表者 1:

おむすび食堂、チームおむすび、発表させていただきたいと思います。

実践への思い、私達おむすび、おにぎりでもいいのですが、チーム名をおむすび食堂として高円寺で活動させていただきました。一緒に作って食べて、コミュニケーションを広げていこうということで、それで地域の中で私達が活動できればいいなということから始まりました。

これが実践の時の写真で、手前にあるのがご飯です。人との真ん中にあるのが具材、いろんな具材をご飯に包んで自分で握ってむすんで食べる。食べている時に皆さん無言ではなく、ニコニコ楽しそうにお話して、何もお題はなかったんですけど、皆さん楽しそうに参加していただきました。これが食べたり、こういう具材ですよーという紹介になります。

実践してみてわかったことですが、やはり私達初めてでしたので材料の配分、量、こういうのがわからなくて、袋を開けたんだけど半分しか使わなかった、みたいに、具材が残っちゃった。決して食べきれませんでしたということではないのですが、私達の中ではもう少し材料をきちっと揃えられれば、何グラムだなみたいなことができればと反省しました、これから追々出来ると思います。

実践を振り返りまして今言ったようなことや、まな板とか調理具、これがちょっとカビ臭かったりしてすぐには使えなかったということがあり、洗い直しをしました。皆さん調理に手慣れているのでさっさとやりました。この日は朝から雨で、どうしようかな、行くのを止めちゃおうかなと思っていたんですが、皆さん調理が終わって食べる頃にはもう空も太陽が出てきて、皆さんもニコニコしてやれたなということで、いい思い出が残りました。

これから私達がやろうとしていることは調理が伴います。調理が出来る人と参加者が入れるっていう場所が非常に探しにくい。適当な場所がなかなか見つからずに実践と言うよりはまだ場所探しだねってことです。候補として(高円寺フリースペース)ヒツナさんで出来たらいいのかなと思っています。25日に私達の方では、ヒツナさんをお借りして打ち合わせを予定しています。これからどういう風になっていくかというのが楽しみなところですよ。

「おにぎり」が「鬼を切る」と似た語音故、魔よけ効果があると言われていて、おにぎり、おにぎりイコールおむすびということで、こんなことを始めております。こういう風にやっていって、段々人と食べることで美味しいし何か嬉しいね、楽しいね、ただ楽しいね、だけじゃなくて、孤食の人達もこういう場に出てきてもらえたらいいよねっていう様なことを実践して体験させていただきました。

学習をサポートしていただいた諸先生方、諸先輩方、ゲスト講演でお話しいただいた先生達、私達のためにいろいろと情報を取っていただいたりして協力していただきました。1つ自慢話なんですけど、すぎなみ教育報、こちらの1番後ろのページの真ん中、最初に使わせていただいた写真、みんなが笑顔でこういうおむすびを作っているという写真を載せていただきました。ありがとうございます。

川上さん:ありがとうございました。以上で高円寺コースの発表を終わらせていただきたいと思います。ご清聴、どうもありがとうございました。

司会者:川上さん、どうもありがとうございました。これで地域コース、西荻コースと高円寺コースの発表も終わらせていただきました。西荻コースと高円寺コースについては、学習支援者の方の他に、西荻コースでいきますと地域サポーターズ、高円寺コースでいきますと、高円ジャーの方々ですが両コースの応援に入ってくださいました。大人塾を卒業した方とか、高円寺や西荻のまちで活動している方達にも、企画・運営で大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

たいと思います。ありがとうございました。

それでは今の3つのコースのお話を伺わせていただいて、私共教育委員会事務局、生涯学習担当部長の安藤利貞より、感想等お話をさせていただければと思います。安藤部長、よろしく申し上げます。

## 合同成果発表会講評

生涯学習担当部長・安藤利貞：

ただ今ご紹介に預かりました生涯学習担当部長の安藤と申します。発表、お疲れさまでした。それぞれいろんな活動、発表、すごく興味深く聞かせていただきました。ちょっと感想と言うか講評という程のものでもないですけど、喋りたいと思います。

最初の総合コース、プラネット・ラボでございます。これ、地球スケールで物事を考えるということで、それぞれ空、海、歴史、星、暦、自然災害という様々なことに渡りまして地球規模で考えることが大事かなと、それによって我々もライフスタイル、どうやって生きていくのかなというところも考えさせられ、非常に大きな視点であり、そういう意欲的な企画じゃないかと思えます。やはり人間、ちっぽけなもんだなあとも思いますが、じゃあ何ができるのかということ日々考える、こういったきっかけになる大変意義のある企画だったと思います。

2番目の西荻コース、ぷらっと西荻パート3でございますけど、西荻のまちの魅力とか、そういったいろんな活動ができるポテンシャルのあるまち、西荻だと思います。そんな中で「西荻ふぁん・ふぁん・フェス」を開いているんな集まった活動をしていく。

アート、探検隊、音まちといったそれぞれの遊び心を持ったというようなイベントをその中でやっていくと、いろいろフェスをやると大変なことだと思うんですけど、そういったものに繋いでいったというところはよくやったなという風に思えます。やはり遊び心というのを忘れずに続けていただければ、大変今後も面白いなという風に思いました。

最後に、高円寺、多世代食べり場、食を通じた交流ということで、様々なものが考えられると思う。かんたんごはんというのが、レシピですね、毎日のレシピをどうやって簡単に作るかということですけど、私も毎日晚御飯を作っていて、夕飯の献立に非常に頭を悩ませておりました、段々自分の得意なものとか好きなものしか出来なくなっちゃう、そういった中でやっぱりいろんなレシピをこうやって紹介されると、とにかく早く簡単に美味しいものを作りたいというところでは、大変参考になりました。又、中高生の食の交流、やはり中高生も一緒に作って食べるということで、その中でいろいろ交流、話をしていくというのは非常に大事で、そういったこともなかなか今後も発展できるかと思いました。後はもちろん、おむすび、そういったいろんな多世代の交流ができる食というものを通じまして、高円寺の盛り上がりを今後も続けていって欲しいと思います。

最後にまとめというのはありませんけど、大人塾、やはりこの中で仲間づくりは出来たと思いますので、そういったものが今後地域で楽しみ、面白いことを実践して、地域の盛り上がりになって欲しいと思いますので、これからの活動にぜひ期待しています。今日はどうもありがとうございました。

司会者:ありがとうございました。それでは、これで第1部を終わって、休憩の後に第2部に入っていきたいと思うのですが、第2部はこの真ん中の通路より上を使って、プログラム「トークダンスUNO」というすぎなみ大人塾が全国オリジナルでやっているプログラムになっておりますので、そのトークダンスUNOで少し皆さんが繋がる時間を作りたいという風に思っております。通路より後ろでお荷物を持ってお座りの方は、とりあえず通路より前のどこか椅子に荷物と一緒に、休憩の後は一旦お集りいただければと思います。休憩の後、第2部は、15:40から始めさせていただきたいと思います。10分少々休憩にしたいと思います。皆さん、どうもありがとうございました。